

### 夏を安全に楽しみましょ



はいた〜い、8月やいびんどー。あちさいびんやー。脱水さんように、みじんたふあーら、うさがみそーりよーたい。

まだまだ暑い日が続いていますね。ウチナンチュなら、やっぱり「海でビーチパーリー」でしょうか。

今回は、そんな海でのレジャーを安全に楽しく過ごせればと、「水難事故」に関するデータについて調べてみました。

では早速、表1をご覧ください。平成28年における水難事故の発生件数は1,505件、水難者1,742人、うち死者797人、行方不明者19人、負傷者313人、無事救出者は613人となっています。お気づきですか？なんと、水難者の2人に1人が死亡又は行方不明となっているんですよ。これってすごい割合だと思いませんか。

	H27		H28	
	総数	子供	総数	構成比
発生件数(件)	1,450	179	1,505	162
水難者(人)	1,635	230	1,742	217
死者・行方不明者	791	53	816	(47%) 31
死者	780	53	797	(46%) 31
行方不明者	11		19	(1%)
負傷者	314	44	313	(18%) 54
無事救出	530	133	613	(35%) 132

注) 発生件数(件)の、「子供」欄は水難者が子供のみであった件数を示す。  
※ 構成比については、県統計課にて算出

表1:水難発生状況(発生件数及び水難者数)(平成27・28年)

では、どの年齢層での事故が多いのでしょうか。(表2)

平成28年の水難者1,742人のうち、高校卒業相当年齢以上65歳未満が845人(48.5%)、65歳以上の高齢者が589人(33.8%)と、いわゆる「大人」での割合が高いようです。てっきり子供の事故が突出しているのかと思いましたが、実は、そうでもないようです。子供の事故件数は217件と全体の12.5%で、小学生でその割合が高くなっています。



	H27		H28	
	人数	人数	人数	構成比
子供	230	217	217	12.5%
未就学児童	74	59	59	3.4%
小学生	115	119	119	6.8%
中学生	41	39	39	2.2%
高校生又はこれに相当する年齢の者		63	70	4.0%
高校卒業に相当する年齢以上65歳未満の者		783	845	48.5%
65歳以上の者		559	589	33.8%
不明			21	1.2%
合計	1,635	1,742		

表2:水難者の年齢層別数(平成27・28年)

では次に、場所別による死者・行方不明者数をみてみましょう。(表3,4)

平成28年における死者・行方不明者数は816人、うち「海」によるものが425人(52.1%)、「河川」によるものが250人(30.6%)となっています。ですが、これを子供に限定してみると、子供の死者・行方不明者31人中、「河川」によるものが20人(64.5%)、「湖沼池」、「用水路」、「プール」がそれぞれ3人(9.7%)、「海」が2人(6.5%)と、ずいぶん様子が違ってきます。



	H27		H28	
	人数	人数	人数	構成比
海	418	425	425	52.1%
河川	235	250	250	30.6%
湖沼池	57	44	44	5.4%
用水路	68	81	81	9.9%
プール	5	9	9	1.1%
その他	8	7	7	0.9%
合計	791	816		

表3:死者・行方不明者の場所別数(平成27・28年)

	H28	
	人数	構成比
海	2	6.5%
河川	20	64.5%
湖沼池	3	9.7%
用水路	3	9.7%
プール	3	9.7%
その他		
合計	31	

表4:死者・行方不明者の場所別数(子供)(平成28年)

では、行為別による死者・行方不明者数になるとどうでしょう。(表5,6)

平成28年の死者・行方不明者数は816人ですが、「魚とり・釣り」での事故が237人(29.0%)と一番多いことがわかります。これを、子供に限定してみると、子供の死者・行方不明者31人中、「水遊び」14人(45.2%)、「陸上における遊戯・スポーツ中」5人(16.1%)、「水泳」4人(12.9%)という結果に。子供は浅いところでも溺れる可能性が十分にあるようなので、「水遊び」の最中の事故も、そんな状況の中、発生してしまつたものなのかもしれません。

	H27		H28	
	人数	人数	人数	構成比
水泳	69	69	69	8.5%
水遊び	55	61	61	7.5%
魚とり・釣り	226	237	237	29.0%
作業中	53	62	62	7.6%
通行中	75	49	49	6.0%
その他	313	338	338	41.4%
陸上における遊戯・スポーツ中	4	5	5	0.6%
ボート遊び	5	14	14	1.7%
水難救助活動	5	13	13	1.6%
シュノーケリング	30	22	22	2.7%
スキューバダイビング	9	10	10	1.2%
サーフィン	12	11	11	1.3%
その他	65	54	54	6.6%
不明	183	209	209	25.6%
合計	791	816		

注)「不明」は、従来「その他」に含まれていた原因不明の事故を示す。

表5:死者・行方不明者の行為別数(平成27・28年)

	H28	
	人数	構成比
水泳	4	12.9%
水遊び	14	45.2%
魚とり・釣り	2	6.5%
作業中		
通行中	2	6.5%
その他	9	29.0%
陸上における遊戯・スポーツ中	5	16.1%
ボート遊び		
水難救助活動		
シュノーケリング		
スキューバダイビング		
サーフィン		
その他	2	6.5%
不明	2	6.5%
合計	31	

表6:死者・行方不明者の行為別数(子供)(平成28年)

都道府県	発生件数(件)		順位
	発生件数	子供	
全国	1,505	162	
沖縄	85	7	1
千葉県	72	6	2
北海道	62	2	2
神奈川県	62	6	6
長崎	60	5	7
静岡	57	6	2
大阪	57	3	3
新潟	55	8	6
富山	49	9	1
福岡	49	9	15

表7:都道府県別水難発生状況(上位10県)(平成28年)

※県統計課にて順位付け

ちなみに、都道府県別による水難事故の発生件数は、平成28年では、沖縄県で最も多く85件、次いで、千葉県72件、北海道62件となっています。(表7)

また、平成28年(平成28年8月31日現在)の沖縄県における水難事故の発生件数は49件で、県民28件、観光客18件、米軍人等は3件となっています。

さて、そんな怖い水難事故ですが、未然に防ぐためにできること、あるんですよ。

#### <水難事故を防止するために>

##### ◆ライフジャケットを必ず着用する

潮干狩り、釣り及びシュノーケリングなどの際は、ライフジャケットを必ず着用する。

##### ◆シュノーケルは正しく使う

##### ◆子供だけの遊泳は行かせない

保護者が同伴の場合でも、子供が水から上がるまで確実に見届ける。

##### ◆台風時や天候が悪いときには、絶対に海岸に近づかない

##### ◆飲酒した場合や体調が悪いときの遊泳はやめる

～沖縄県警察ウェブサイトより～



	H28			
	発生件数(件)	水難者総数(人)	死者(人)	行方不明者(人)
県民	28	33	6	1
観光客	18	18	3	0
米軍人等	3	20	5	0
合計	49	71	14	1

表8:沖縄県における(県民・観光客・米軍人等)の水難事故発生状況(平成28年)(平成28年8月31日現在)

あなたのそのレジャーを笑顔で終わらせるために、何より、あなたの大切な人を守るためにも、これらのことを、しっかり守っていききたいですよ。